【学校教育目標】前向き Be positive!
めざす生徒像
・高い志をもち，課題解決に向けて主体的に学び，根拠をもとに正しく行動する生徒
・人間性豊かで思いやりがあり，他者と協働的に取り組む生徒
・一歩前に踏み出し，ねばり強く最後まで取り組む生徒

【使命・存在意義（ミッション）】
・ふるさと甲奴を誇りに思い，確かな学力を身に付けさせるとともに，将来を見据え主体的に学び，根拠をもとに正しく判断し行動する生徒を育成する。
・生徒会を中心に生徒の組織的な自主活動を進め，主体的に学び高め合う集団を育成する。
・異文化間協働活動を推進し，グローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力を育成する。
・甲奴中学校区コミュニティ・スクールとして小中一貫教育を推進し，保護者・地域とともに将来を担う生徒を育成する。

【甲奴中学校区小中一貫教育目標】
ふるさと甲奴を誇りに思い，自ら未来を切り拓いていく子供

【資質・能力】
「課題を発見し解決する力」
「コミュニケーション能力」
「乗り越える力」

	中間経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標（☆は取組指標，★は成果指標）	中間（10月）		最終（３月）		結果と分析	改善方策
					指標評価	評価	指標評価	評価		
確かな学力（知）	「主体的，対話的で深い学び」を実現する授業の質を高めることにより，これからの社会で活躍することができる生徒を育成する。	学力の定着	・基礎・基本の確実な定着のための学習 ・質の高い課題の選択と家庭学習の充実	★生徒アンケート「毎日の授業内容が理解できています。」を85%以上にする。	a	A	a	B	○「授業内容の理解」に関しては肯定的回答の割合は88.0%であった。各教科においてめあてや身に付けるべき力を明確にし，それを生徒と共有することを意識して授業作りを行った成果であると考えられる。しかし，定期試験や学力調査の結果から，日々の授業理解が学力定着に結び付いていない部分も見られる。 ○三次市学力到達度検査においては，1学年では国語，社会，数学が６年時よりも全国平均との差を改善することができた。普段の授業での頑張りに加え，試験前の取組を学年会を中心に充実させた結果といえる。一方，２学年では昨年度より改善された教科は国語のみであった。２学年については既習事項の基礎的内容の定着に課題が見られ，定着に向けた取組が急務である。 ○各教科で選択制の課題やデジタルドリルを活用した課題などを取り入れた。しかし，一部の生徒には家庭学習について依然として課題が見られる。	○前時で学習した内容をその場での理解に留まらないように，生徒の振り返りを充実させ，それを活用した復習の時間を設定する。 ○既習事項を定着させるために，フォローアップ学習の内容を再検討したりデジタルドリルを活用した繰り返しの学習を行っていく。生徒の課題を分析し，下学年の学習内容においてつまずきが見られる場合は，まずその部分を確実に定着させていく。 ○生徒の実態を分析し課題内容を検討するとともに，引き続き選択制の課題を取り入れたり，授業とよりリンクさせた課題を設定したりすることで，全ての生徒が充実した家庭学習ができるようにする。また，各教科担当と各学級担任が連携し，課題等について家庭との連携を密にとることができるシステムを構築する。
				★全国学力・学習状況調査及び三次市学力到達度検査において全学年の各教科平均値と全国平均値との差を昨年度より向上させる。	a		c			
				☆個別最適な家庭学習の充実を図るため，各教科で課題設定を工夫し取組を行う。	a		a			
		活用力の向上生徒が主体的に学ぶ授業	・「課題発見・解決学習」の質を高める授業の研究 ・中学校英語授業の効果的な指導方法（５ラウンドシステム）等に関する実践的研究 ・防災（河川）学習を中心としたカリキュラムマネジメントの推進 ・ICTの有効活用 ・組織的・計画的な授業研究（一人一研究授業）	★生徒アンケート「授業では，解決しようとする課題について，『なぜだろう』『やってみたい』と思います。」を80%以上にする。	b	B	b	B	○「授業では，解決しようとする課題について，『なぜだろう』『やってみたい』と思います。」の肯定的回答の割合は72%と中間とほぼ同様であった。課題設定等についてはそれぞれの教科で工夫しているが，それらを教職員間で共有し，さらに意識を高めていく必要がある。 ○「即興で自分の考えや気持ちを英語で伝えることができる。」の肯定的回答は63.0%と目標を下回った。インターナショナルデイやリトルティーチャー等の行事において英語の活用場面を設定したり，普段の授業においても即興的に伝え合う活動を設定しているが，生徒自身が「自分たちが英語で伝え合うことができている。」という意識には至っていないと考えられる。 ○防災学習については カリキュラムマネジメントを設定し，各教科において防災と関連付けられる単元において総合的な学習の時間と繋げて取組を進めた。 ○今年度校内授業研究を３回実施した。また，学校サポート研修において，特別支援教育の視点から各自の実践を持ち寄り，共有することができた。	○各教科における学習意欲等の実態把握をより具体的に行い，改善を図る。また，生徒の興味・関心を引き出すような身近なテーマ設定や生徒に疑問を持たせるための発問の設定していく。 ○普段取り組んでいる即興的な言語活動に引き続き取り組むことに加え，活動の中で生徒への価値付けや肯定的評価を丁寧に行うことで，「自分たちは伝え合うことができている。」という意識を生徒がもつことができるようにしていく。。 ○防災学習の質を高めるために，個別最適な学習を取り入れた防災学習を計画したり，学年間の系統がより充実するように検討していく。 ○特別支援教育の視点を意識し，今後もお互いの授業交流や実践交流を定期的に設定し，各教職員が授業改善に生かす。
				★生徒アンケート「原稿などの準備をすることなく，即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝えることができる。」を80%以上にする。	a		b			
				☆防災学習について，カリキュラムマネジメントを基に教科横断的な視点で取組を行う。	a		a			
				☆一人一研究で，課題発見・解決学習を進める授業研究をする。授業交流週間で互いの授業を参観する。	a		a			
豊かな心（徳）	集団の力を高め，豊かな感性と行動力のある生徒を育成する。	生徒指導上の諸課題の解決	・個別最適な対応を見据えた積極的生徒指導の推進 ・生徒が安心して過ごすことのできる環境整備 ・あいさつ（先言後礼・４秒礼）の励行 ・生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し，面談とSCによるカウンセリングの実施 ・関係機関との積極的な連携 ・道徳価値の自覚を深める授業	★年間30日以上の欠席がある生徒（不登校生徒）数を昨年度比50%以下にする。	a	B	a	B	○１月末時点で不登校生徒が１名，長期欠席者生徒が１名であった。昨年度不登校生徒５名に対して４名の減少となった。登校していない家庭には何度も電話で連絡したり家庭訪問をする等し，校内では情報共有を密に行った成果である。 ○２学期に各学年全生徒のSC面談を実施した。一人一人ストレスカウンセリングを行い，生徒の実態を各学年で共有できた。 ○「自分のよさは，まわりの人から認められていると思いますか」の肯定的回答の割合は83.3%であった。１学期と比べ20.8%増加した。１学期は行事の振返りが弱かったので，2学期に実施した文化祭は自己の振返りシートをより具体的なものにし，行事の中で輝いている人やみんなを支えていた人を書かせ，クラスで共有したことが改善に繋がった。 ○i-checkにおけるいじめのサイン・対人ストレスの標準スコアはそれぞれ54.8，53.3であった。生徒の小さな変化も職員間で情報共有したり，担任が毎日デイリーを通していじめのサインを見逃さないことやSCとの面談を実施したことが改善に至った。 ○「『道徳の時間』の勉強はためになると思う」の肯定的回答の割合は100%であった。教材の工夫や担任だけではなく，学年会で道徳授業の充実に向けて取り組んだ成果だと考察する。	○総合的な学習の時間で進路を意識させる取組や行事の中で役割をもたすことを積極的に増やす。また，欠席が続く場合は，家庭訪問の実施やSCとの外部連携を行うことやケース会議を実施し取り組んでいく。 ○引き続き，SC面談を計画し，カウンセリングを行っていく。 ○引き続き，行事終了後，自己を振り返るための方法を見出したり，自己を認める機会を増やしていく。 ○引き続き，担任だけではなく，学校全体でいじめのサインを見逃さない体制を構築していく。授業や学校生活での小さな気づきを共有したり，道徳の教材の中でいじめの題材の発問を学年で考えたりしていく。 ○いじめ防止委員会に加えて，二学期より拡大校務運営委員会を開き，特別支援教育についても学校体制として取組を進めており継続する。
				☆生徒アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し，面談とＳＣによるカウンセリングを実施する。	a		a			
				★生活アンケート「自分のよさは，まわりの人から認められていると思いますか」を90%以上にする。	c		b			
				★i-checkで，いじめのサイン・対人ストレスを標準スコア50以上にする。	a		a			
				★「道徳科」では，「『道徳の時間』の勉強はためになると思う。」を90%以上にする。	a		a			
		主体的な生徒会活動	・専門部会を中心とした課題発見・解決 ・いじめ０プロジェクトの継続・深化 ・思いやりの木の取組	★生徒アンケート「あなたは，生徒会活動に真剣に取り組みましたか」を90%以上にする。	a	A	a	A	○「あなたは，生徒会活動に真剣に取り組みましたか」の肯定的回答の割合は100%であった。生徒会行事の取組としてスローガンの原案募集や生徒指導規程の見直しを生徒から意見を吸い上げたことが成果に繋がった。 ○生徒会主催の秋に行った花植えボランティアでは，９２%の参加率だった。各クラスでの呼びかけを多く行っていた成果だった。	○引き続き，生徒会行事を充実させるため，生徒主体の取組を継続していく。 ○各クラスで生徒会が呼びかけを行うなど，今後も多くの生徒が参加したいと思えるような取組を進めていく。
				★ボランティア活動への参加率を70%以上にする。	a		a			
健やかな体（体）	生活習慣の定着と体力の向上を図る。	基本的生活習慣の確立	・小学校との連携による三点固定（就寝時刻・起床時刻・家庭学習開始時刻）の取組 ・「ストップ９」の取組	★三点固定の取組を行い，それぞれの定着率を75%以上にする。	b	B	b	B	○生活リズムチェック1月の三点固定の定着率は，71.8%で目標値に達することができなかった。昨年度までは試験期間中に実施していたが，今年度は試験外の平日で実施したため，より実態が明らかとなった。 ○ストップ9の達成率は，62.5%と目標値より低かった。事前に生徒へ保健朝会で指導したが，取り組みが弱かった。また，生徒の意識が低かったと考える。	○ストップ9の目標について，自分で難易度（チャレンジ度）を選べるように設定し，取組への意欲を高めて，健康的な生活に繋げていきたい。また，引き続き，保健だより等で生活リズムの大切さを伝えていく。 ○生徒指導の生活目標でストップ9を取り入れ，取り組んでいく。
				★生活リズムチェックによる「ストップ９」の達成状況を70%以上にする。	b		b			
		基礎体力の向上	・体力つくり計画による体育授業の実施 ・新体力テストの課題種目への取組	☆体力つくり計画による体育の授業の実施をする。	a	A	a	B	○継続して毎時間，授業始めにランニング，筋トレ等の補強運動を実施することができている。継続することで，筋トレができなかった生徒ができるようになっている。また，冬は長距離走を強化し行った。授業を繰り返すことで最後の記録会ではほとんどの生徒がタイムを更新し，全身持久力の向上に繋がった。 ○新体力テストの達成率は男子が54.1%，女子は70.8%だった。特に３年男子が8種目中5種目が県平均以下と非常に低かった。また，男女ともに全身持久力が県平均以下だった。	○補強運動は継続して行い，単元の中で体力向上につながる動き（球技であれば，キャッチボールやゲームの中で全身持久力を高める動き）を積極的に取り入れて行う。 ○体育の時間で実施する長距離走の時間数を増やす。また，校内マラソンを企画し，全身持久力の向上は図る。部活動では，３つの運動部活動が一緒に取組み，体力向上メニューを考案し，実施していく。
				★新体力テストで，県平均以上の種目を70%以上にする。			b			
信頼される学校	働き方改革を推進し，組織力を向上させ，「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	組織力の向上	・働き方改革の推進 ・組織的な学校運営の強化 ・不祥事防止研修の充実 ・小中一貫教育の発展 ・地域力を生かしたカリキュラムの実施	★働き方改革について研修及び業務改善を行い，業績評価（自己申告）書の「働き方改革に関わる項目」において，３以上の評価をしている職員を100%にする。	a	B	a	C	○働き方改革に関わる項目では目標の100%は達成できなかったが，９割の職員は満足しているという結果がみられた。一斉退庁日の定時退校の徹底や部活動を顧問間で調整して指導にあたることにより，時間の確保ができたからだと考察する。 ○不祥事防止研修では，年間計画どおり13回実施することができた。しかし，教職員による不祥事を生起させてしまった。 ○２回実施した保護者アンケートの「学校は地元の小学校と連携した教育を行っている」の項目では，肯定的評価は共に100%であった。学校通信を月１回発信したり，小学校と連携した行事等を計画したこと保護者の理解に繋がっていると考察する。 ○「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価は91.6%であり，目標の90%にするを達成した。３年生においては持続可能な町づくりを考えたり，アメリカス市との交流について訪問報告したりと，甲奴の魅力をより深く知ることにより今まで以上に成果が得られたと考察する。	○働き方改革では，管理職による日頃からの声掛けや進捗状況の把握，一斉退庁日の定時退校を徹底する等の改善を図る。また，休日の部活動においては顧問間で調整して指導にあたるなどの工夫を呼びかける。 ○不祥事根絶のため，勤務時間中は職務に専念し，私的なパソコン使用を行わないよう徹底する。授業中は生徒への指導に専念し，授業中に授業に関すること以外でのパソコン操作を行わないことも徹底する。管理職は授業参観を強化し，職員の服務監督を適切に行う。再発防止のため改めて，不祥事防止研修を実施する。 ○引き続き，学校通信により定期的に情報発信したり，小中一貫教育を推進しながら小学校と連携した取組を実施する。 ○コミュニティスクールの活動として，甲奴町の情報や魅力を探究し，運動会や文化祭等に位置づける等の工夫をする。また，アメリカス市との交流について生徒に企画させたり訪問報告を共有する等，取組を継続する。
				☆不祥事防止研修は，主任や主事・学年会で担当を決め，計画的に一人一回研修を担当する。	a		e			
				★小中一貫教育推進協議会を中心に小中で統一した取組を行い，保護者アンケートで「学校は地元の小学校と連携した教育を行っている」の肯定的評価を80パーセントにする。	a		a			
				★生徒アンケートで「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価を90%にする。	b		a			

指標評価・評価	a・A	b・B	c・C	d・D	e・E
基準	100%以上の達成度	80%以上100%未満の達成度	60%以上80%未満の達成度	40%以上60%未満の達成度	40%未満の達成度
	十分に目標を達成できた	概ね目標を達成できた	ある程度目標を達成できた	あまり目標を達成できなかった	目標を達成できなかった